

# 三峡遊覧旅日記

栗原弘子

2018年日中学院校友会の旅行は長江クルーズを中心に、金さんを団長として3月27日～4月1日の5泊6日の日程で実施された。

3月27日(火) 第1日目 成田発、南京経由で、長江下りの起点重慶へ。夜遅い時間にもかかわらず、美味しく品数豊富な夕食を堪能。楽しい旅の予感がする。解放碑の立つ繁華街は高層ビルが立ち並び、眩しい程の明るさだった。ガイドは日本への留学経験がある山東省出身の王文勇さん。宿は「ヒルトン重慶」。夜着いて朝出発という短い滞在が非常に残念に感じられる豪華なホテルだった。

3月28日(水) 第2日目 朝から雨。乗船まで市内観光をする。最初に行った「洪崖洞」は重慶の伝統建築吊脚楼様式を復元した商業施設で、小さな土産物店が沢山入っていた。次に「湖広会館」等の建築物を見学。1759年乾隆帝時代に創建され、その後増築されたという。禹王宮は精緻な彫刻を施した京劇の舞台が印象的だった。「湖広会館」は移民の歴史が展示されていた。移住理由に虎患(虎出没危険)とあり当時の過酷な生活を知らされた。長江と嘉陵江に架かる「長江大橋」は車窓から見学。杏花村という名の店で家庭料理風の昼食を頂く。日程表にはなかった「磁器口古鎮」へ。その名の通り明・清時代に陶磁器を生産し、輸送した街だそう。現在も古い建物が乗っており、一瞬タイムスリップしたかのような錯覚に陥った。バスに30分ほど揺られ、人民広場へ。人民大礼堂の外観を見る。北京の天壇を思わせる建物は直轄市重慶の威厳を感じさせる。希望者は礼堂の中を参観。続いて大礼堂の反対側にある「三峡博物館」へ。大パノラマ映像で大昔の重慶から現在の重慶へと歴史をたどる。乗船して三峡を下っているかのように演出された長江の風景は、非常にリアルで鑑賞が終わると旅が終わったかのような充足感があった。夕食までの時間を利用して地域の人々の生活が覗ける自由市場を見学。夕食時でも女性が沢山麻雀に興じていたのが興味深かった。校友会旅行の醍醐味は庶民の生活が垣間見られることである。夕食は重慶の名物料理で、王さんは「皆さんの好きな麻婆豆腐が出ますよ」と言っていたが、王さんは辛いものが苦手。日本人もそうだと判断したのか、麻婆らしくなかったが、それ以外は皆目新しく食べたことの無い料理で大いに満足した。夕刻、小雨の降るなかフェリー埠頭から15分ほど歩いて乗り場へ移動。何艘も停泊している中に、これから3日間過ごすことになる船ビクトリアカタリナ号があった。

3月29日(木) 第3日目 朝は太極拳で始まった。師父について練習。ピュッフェ形式の食事は予想以上に品数豊富で美味しく嬉しくなる。我々の団を担当するスタッフは二十歳そこそこで一生懸命気を遣ってくれる。船は三峡を快適に航行していく。最初の下船地は豊都。オプションで「鬼都」を見学できる。夕方は全員上陸して「石宝寨」へ。ダムができたため、孤島となった山に聳える9層建ての楼閣。頂上までは厳しかったが夕映えの風景は実に見事だった。夜はスタッフ総出演の「中国民族衣装ショー」。スタッフたちは芸達者でもある。踊りは先輩のスタッフから習うとのことだ。また、給料とは別に出演料を貰えるのだとか。

3月30日(金) 第4日目 愈々「白帝城」(オプション)に登る。350段程の石段をゆっくりと新緑の中を歩く。疲れたと思う頃、「白帝



# 日中学院報

2018年 7

毎月1回1日発行 第520号

編集発行人・片寄浩紀

定価1部100円/1年1000円(送付郵便振替 東京00100-38184)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3

TEL 03-3814-3591 FAX 03-3814-3590

URL <https://www.rizhong.org/>

E-mail [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)



5月29日～30日 本科日本語科合同合宿

## A 先生の新語コーナー



### yǐnxíngguànjūn “隐形冠军”

隠れたチャンピオン。一般の注目度は低いが、世界で大きなシェアを占める中小企業を指す。中国は職人気質のモノづくりを後押しするため、今年1月に「製造業単品チャンピオン模範企業」125社を発表した。隠れたチャンピオンとも呼ばれるこれらの企業は細分化された特定の分野に心血を注ぎ、生産技術で世界をリードし、単一製品の市場シェアが世界の上位を占めるなどの特徴を持つ。地域別では製造業の盛んな浙江、江蘇両省の企業が多いという。

(A)

城」と書かれた黄色い大きな門が目の前に立ちふさがった。古色蒼然としていると思っていたので意外であった。社会科学見学だろうか。沢山の小学生達が登ってきた。船は正午ごろ左手に蜀の古栈道を眺めつつ、「瞿塘峡」を通過。映像や写真で見た通りの美しく雄大な風景に感動する。その後一時間ほどで「巫峡」を通過。航行速度は意外に速い。船は停止し我々は風に吹かれながら風景を楽しむ。有名な女神峰は高い高い峰の頂上に佇み目を凝らしてやっと発見。「神女溪」へは小船に乗り換えて向かう。観光客が多いので、小船は隊を組むように数珠繋ぎで進んでいく。船のガイドは土家族の女性、前田敦子に少し似ていた。3時間かけて山を下り出勤し、又山を登って帰宅するのだそうだ。日本人を見るのは初めてだと言った。船が人工の陸地に到着すると、ガイドたちが歌と踊りを披露してくれた。とても賑やかでダイナミックだった。夜はクルーズ船で船長主催のディナー。食後「歌謡ショー」。最後の晩なので私達も踊りの輪に加わって一緒に踊った。前日以上に楽しく思い出に残るショーになった。

3月31日(土) 第5日目 クルーズ船に別れを告げ、三峡ダムのシップゲートを通過する。体験船(客船から乗り換えた600人乗りの船)は大きな蓋のない箱に入れられた感じで、水門が閉じると箱ごとエレ

ベーターが下降するような状態になる。規模があまりにも大きすぎてビデオ映像で説明を聞くも(字幕あり)構造が良く理解できないまま船はすんなりと通過し宜昌に上陸。気温30度。暑い。バスを乗り継ぎ三峡ダムを上から見下ろす公園に到着。ダムは巨大すぎて距離感がわからない。唯とてつもないプロジェクトであることだけは分かった。宜昌を離れ高速道路を一路武漢へ。墓に供え物がなされ清明節が近いことを告げている。夜街に入ると、イルミネーションを施した「黄鹤楼」が燦然と輝いていたが、歴史的建造物にはほど遠く、日本のパチンコ店みたいでがっかりした。

4月1日(日) 最終日 行きと同様一日移動日。武漢から上海へ。上海で国際線に乗り換え一路羽田へ。今回はクルーズ中心のゆったりしたものであった。三峡の雄大な流れ、神秘で奇怪な峰々。陽気で元気なクルー達。土家族のガイドさん。人々との出会いは忘れがたく貴重なものとなった。



## ～新任講師紹介～

### 今井寛之先生(日本語科)

はじめまして。今年の春から日中学院で日本語を教えています。

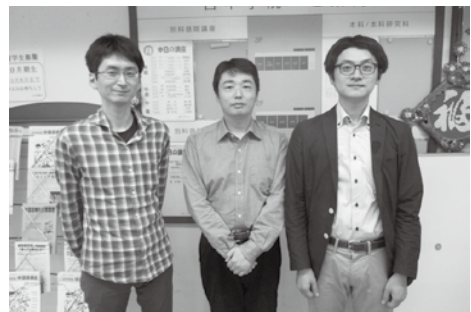
日本語と中国語はどちらも漢字を使っているので「目」で勉強することが多いと思いますが、外国語は「声」に出すことがとても大切です。毎日日本語でたくさん音読して、たくさん会話してください。みなさんの声で、にぎやかで楽しい授業を作っていたらと思います。

### 伊藤恭平先生(日本語科)

みなさん、こんにちは。日本語科の伊藤と申します。みなさんは毎日、日本語の単語や文法を学んでいることと思いますが、語学の勉強というのはそれだけではありません。ことばの裏には、その言語が持つ文化や社会が詰まっているものです。ツールとしての日本語だけではなく、その奥にある何かを見つけられるよう勉強を進めていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

### 古谷創先生(日本語科)

はじめまして。古谷創(ふるや・はじめ)です。5月から日中学院で日本語を教えています。わたしは大学院で中国の歴史を研究していました。いまも暇なときは、中国の歴史の本を読んでいます。好きなことは料理で、食べることも作ることも好きです。みんなで餃子を作ることを楽しみにしています。よろしくお祈いします。



左から今井先生、伊藤先生、古谷先生

このコーナーでは、古来から書き下して読むのが主流の漢詩を、七七調に和訓して(読みやすい日本語を当てて)紹介します。

送友人  
ともをおくる  
李白

青山横北郭  
あおいやまやま きたにつらなり

白水遶东城  
かわはまぶしく ひがしをめぐる

此地一為別  
きみはこのちに わかれをつけて

孤蓬萬里征  
ねなしのように とおきたびだつ

浮雲遊子意  
ただようくもが きみだとすれば

落日故人情  
しずむゆうひを わたしとおもえ

揮手自茲去  
てをふりながら いざさりゆかば

蕭蕭班馬鳴  
ものさびしげに うまもいなく

青山 北郭に横たわり

白水 東城を遶る

此地 一たび別れを為し

孤蓬 万里に征く

浮雲 遊子の意

落日 故人の情

手を揮つて茲より去れば

蕭蕭として班馬鳴く



図書室  
だより

今年もやります!

2017年度ベストリーディング

お待たせしました! 2017年度、皆様にもっとも親しまれたベスト10の発表です。

今回は毎年上位を占める中検問題集とHSK過去問集にはベンチ入りをご遠慮いただき、その他の図書たちでの奮戦となりました。

\* 1位 『中国語解体新書』

2位 『合格奪取! 中国語検定2級トレーニングブック』

3位 『中国語文法 補語完全マスター』

4位 『品詞別・例文で覚えるHSK基本語彙 5級-6級』

\* 5位 『日本人のための中国語発音完全教本』

5位 『出るところだけ! 中国語検定3級合格一直線』

5位 『中国語で紹介する日本 [文化編]』

5位 『合格奪取! 中国語検定4級トレーニングブック』

9位 『精選中国語基本文例集 第2版』

9位 『発音の基礎から学ぶ中国語』

9位 『聞いて覚える中国語単語帳 キクタン中国語 [中級編] 中検2級レベル』

9位 『どう違う? 例文で覚える中国語類義語1000』

9位 『口を鍛える中国語作文一語順習得メソッド—中級編』

9位 『口を鍛える中国語作文一語順習得メソッド—補強編』

9位 『口からはじめる中国語 パズル式作文トレーニング』

[所感] 圧倒的に強かったのが\*印の2冊。箱根駅伝でいえば「山の神」といったところでしょうか。



1位の『中国語解体新書』は6月下旬から、5位の本学院盧尤講師の著書『日本人のための中国語発音完全教本』にいたっては10月下旬からの配架にもかかわらずゴボウ抜き! 内容の良さと生徒のニーズに応えた書として貸出や予約が続き、際立った人気をみせました。

9位の『精選中国語基本文例集 第2版』も6月上旬からの配架ですが、講師からも問い合わせや学生への紹介がもたれた一冊でした。

なお順位に囲みがあるものは本学院講師の著書で、毎年根強い人気を誇っています。



# 7月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
<b>1</b> ●日本語能力試験	<b>2</b>	<b>3</b> ●本科1年朗読大会	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>
<b>8</b>	<b>9</b> ●日本語科定期試験(～13日)	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b> ●日本語科ホームステイ(～16日)
<b>15</b>	<b>16</b> ●祝日	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>
<b>22</b>	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b> ●本科定期試験(～31日)	<b>26</b>	<b>27</b> ●日本語科 個人面接	<b>28</b> ●三遊亭楽生師匠講演会(13:00～)
<b>29</b> ●本科2年短期研修帰国	<b>30</b>	<b>31</b> ●本科・日本語科授業最終日				
●8月の日中学院 ・1日…本科夏休み(～31日) 日本語科夏休み(～26日)		・7日…夏期集中講座(～10日) 別科夏休み(～19日) ・11日…閉門(～19日)		・19日…閉門/別科授業再開 ・25日…本科生のための公開講座(9:30～) ・27日…日本語科 授業再開		

## 日中学院倉石賞の推薦をお願いします！

日中学院の創始者であり、日中友好を目的とする人材の育成に尽力された倉石武一郎先生の没後15年に創設された倉石賞は、今年21回目を迎えます。「日中友好の架け橋」となる人材育成に資することは、これまでも増して大いに意義あることと考え、多くの皆様に2018年度(第21回)日中学院倉石賞受賞候補の推薦をお願い致します。

**対象**：○民間中国語教育の普及・向上および日中文化交流などに貢献した個人・団体。

○中国語の教育、研究、翻訳などに関する業績・著書・論文。(在日本、中国を問いません)

**募集締切**：2018年8月20日(月)

**発表**：2018年9月下旬

**授賞式**：2018年11月下旬予定

詳しい要項はお問い合わせ下さい。

日中学院Tel：03-3814-3591

## 新しい連載が始まります！

学院長の思い出話 1

大学の第二外国語から倉石の夜間コースに

私は島根県出雲市の出身。地元の大学に進学し、公務員か、教師になろうと思っていました。ところが、高校の先生から「だめもと」で東京の大学受験を勧められ、まさかの合格。1964年、T大法学部に入学、第二外国語として中国語をなにげなく選択しました。

運命は不思議なもので、この偶然の選択が、私の未来の一切を変える契機になりました。

大学の中国語教師は工藤篁(たかむら)先生でした。「中国人の目は黒いのに、なぜ中国語で目を意味する“眼睛”の“睛”という字には“青”が入っているのか？」この突然の質問で、私は中国語及び中国に対する興味を覚えるようになりました。工藤先生は「同文同種」という言い方を否定し、「中国人を外国人ととして理解しなければならない」と説きました。また、「使える中国語を学ぶためには『倉石中国語講習会』へ行きなさい」と勧めてくれました。

1964年10月から「倉石中国語講習会」の週3回の夜間コースに通い始めました。